



第7回 JOIC 異業種交流会 「オープンイノベーション戦略 ～オープンとクローズの領域～」

オープンイノベーション・ベンチャー創造協議会事務局
(運営支援：有限責任監査法人トーマツ)

1. 日 時

平成 29 年 1 2 月 4 日 (月) 18:00~20:30 (17:30 受付開始)

2. 場 所：AP 東京八重洲通り (東京駅八重洲中央口 徒歩 6 分) 11 階 O (オー) 室
東京都中央区京橋 1 丁目 10 番 7 号

3. 目 的

経済産業省が公表した「研究開発型ベンチャー企業と事業会社の連携のための手引き (p.88)」によると、事業会社が研究開発型ベンチャー企業と連携を検討する際の目的の上位は「自社にない技術/知財/ノウハウの獲得/活用」、「研究開発のスピードアップ実現」、「技術の実現性の検証 (フィージビリティスタディ)」です。

一方、壁を感じた回答として「ベンチャー企業の技術を活用する領域が曖昧であり、コンタクトしても大抵の場合で挨拶止まりになってしまう」が 38.8%、「ベンチャー企業の技術を探索・採用するインセンティブが乏しく、社外連携に向けた活動が活性化しない」が 30.6%あります (同 p.94)。

戦略策定はオープンイノベーションを進めるステップの第一段階であり、重要なステップであると考え、今回のテーマに設定しました。

社内のニーズの聞き取りや自社技術の棚卸等の活動によりオープンイノベーションを推進されている実務家のお話や、参加者同士の意見交換を通じ、参加者が戦略策定のヒントを得る場とします。

※「研究開発型ベンチャー企業と事業会社の連携のための手引き」

http://www.meti.go.jp/policy/tech_promotion/venture/tebiki.pdf

4. 内 容：

【プログラム】

- ・オープニング (スケジュール紹介、アイスブレイク)
- ・ゲストスピーカーによる講演
- ・全員参加型の座談会
- ・個人ワークと交流会

当日配布する簡潔な整理フォーマットへ、「自社の強み (特徴、面白いと思うこと)」と「他社に協力を得られると良いと思うこと」を個人ワークで書き出します (6 番の事前準備をご参照)。その内容のうちオープンに出来る箇所を他の参加者と積極的に議論し、ブラッシュアップにご活用ください。

※プログラムは予定であり当日変更する場合がありますのでご承知おきください。

【ゲスト講師】

- ヤマハ株式会社 研究開発統括部新規事業開発部 企画担当主幹 松本 恵 氏
1961年群馬県生まれ。1983年東京外国語大学外国語学部フランス語学科卒業後、ヤマハに入社。
主に海外営業・マーケティング畑を歩む。1987年にスペインに赴任以来、米、独、英と4カ国に合計20年駐在。2010年帰国後は日本を拠点に海外マーケティングに携わる。
2013年に新規事業開発部門に異動し主にM&Aを担当。現在はアクセラレーターなどベンチャー連携を手がける。
- 株式会社村田製作所 新規事業推進部 新規事業推進5課
オープンイノベーション推進チーム マネージャー 牛尾 隆一 氏
1991年三菱化学株式会社入社、ハードディスクメディアの開発から量産までを担当する。
1999年にMitsubishi Chemical Infonics社（シンガポール）に出向した後、2001年に株式会社村田製作所入社、積層セラミックコンデンサの商品開発を担当する。2008年立命館大学にてテクノロジーマネジメント（MOT）修士を取得後、技術企画部マネージャーとして全社技術戦略立案を担当する。
2012年より、全社のオープンイノベーション推進を担当し、2015年野洲事業所内にオープンイノベーションセンターを設立した。